おはなし散歩道

娘と根っこ橋

湯沢町　富樫あい子

むかーし、昔の話じゃ。武州の山奥に母と娘が住んでおった。

梅雨で雨が降り続く日に、娘は母親の熱が下がらない病を心配して高尾の麓にある薬屋に行った。

山道は、獣も出る怖い道だと村人も恐れていた。

娘はそんな事おかまいなしに家を飛び出した。

薬屋の婆さまは奥山から来たという娘に驚いた。

「雨が降るのに大変じゃった。変な者に会わなかったかい？」

「はい」

「気を付けて帰れよ。早く薬を飲ませてやれ。お山にお参りしたか？」

「はい。高尾山にお参りしての帰りです」

「感心じゃ。雨が強くなってきたが大丈夫かのぉ」

婆さまは娘を励ますと、薬を手渡した。

「ありがとうございます」

娘は激しく降る雨の中、走り出した。

雨足は次第に強くなり、先が見えない降りじゃ。

谷川の泥水がゴーゴーと渦を巻き山から倒木が流れ落ちてくる。

「おっかないよぉ！」

娘は山道に立ちすくみ、

「おっかぁ！　今、薬もって行くから～」

と叫び、立ち上がり走った。しばらく行くと娘の足がピタッと止まった。

「橋がない！」

村へ渡る橋が流されてしまったのじゃ。

娘はおどおどして、濁流をジッと見つめていた。

すると、いきなり泥水の渦に飛び込んだのじゃ。

「危ない、やめなされ！」

川の中から雷声が聞こえてきた。

見ると、六尺の大ナマズが尾びれで娘を川岸にはね上げたのじゃ。

「おっかぁに薬を飲ませないと死ぬ！」

と娘は道に伏せて叫んだ。

「お前こそ死ぬ。待て！」

大ナマズは、さらに雷声を張り上げると、濁流の中をもぐったり跳ねたりしているうちに、川岸に大きくそびえ立つ楠に語り始めたのじゃ。

「わしの体は、ぬめって娘を背負うことが出来ない。あの娘は、病の母親に早く薬を飲ませたいのだ。どうか、向こう岸に渡してくださらんか……ナムイヅナダイゴンゲン　ナムイヅナダイゴンゲン」

大ナマズは、楠に向かって念じはじめたのだ。

しばらくして雨も小降りになり、楠の葉がザワザワとした。その時、根っこが、ぐいっ、ぐぐぐい、と伸びて谷川をまたいだのじゃ。

ナムイヅナダイゴンゲンと大ナマズは楠を見上げて大声で唱えた。

「渡りなされ。帰ったら母親に、必ず山清水を飲ませて頭を冷やすのだぞ」

「はい、感謝します」

娘はひたすら頭をさげ、根っこ橋を渡ると、わき目もふらずに走った。

ようやく家に着くと、母親に薬を飲ませて山清水を汲みに行った。

「これ、飲めるの？」

土砂降りで水は濁っていた。娘は思案したが大ナマズの言う通り桶に濁り水を汲むと、大ナマズの姿が桶の中をよぎったのじゃ。アッという間に泥水が澄んだ。走って帰り母親に飲ませると、

「…気持ちがいい……」

母親の意識が戻り、熱が下がりだしたのじゃ。

「体が嘘のように楽だ」

という母親の手を握り、娘は一部始終を話した。

それを聞いた母親が、

「木の根っこ。泥水が？これは、イヅナ様のお陰だ。高尾の天狗さまじゃ」

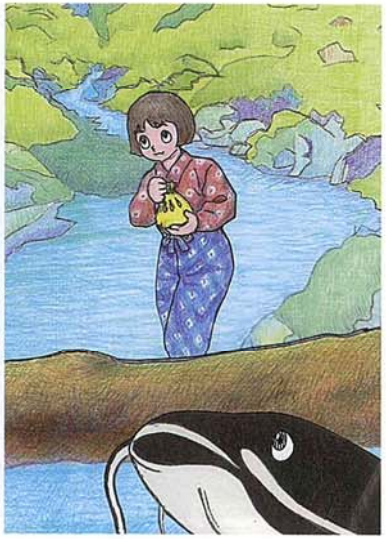
その話を聞いた村人は、みんなで根っこ橋を見に行き大喜びしたのじゃ。

山清水は、病の水薬として大切に使ったという。

苦しい時も、うれしい時も、高尾山のイヅナ様に向かって念じたそうだ。

そうそう……ナマズは、魚へんに念と書きおる。

鯰、誠じゃのぉ



（挿し絵・小出　茂）

高尾山内八十八大師巡り

五月八日、高尾山内八十八大師巡りが行われ、小雨の降りそそぐ中で総勢十五名の方々が参加されました。高尾山中を巡拝し、お大師様との御縁を結ばれた。

巡拝は清滝周辺のお大師様から始まり先達の僧侶とともに、「南無大師遍照金剛」とお大師様の御宝号お唱えしながら険しい琵琶滝道を通り徒歩練行を行い、薬王院までの道中で各お大師様に法楽をあげました。

山上に到着し、大師堂周辺の八十八大師御砂踏霊場を巡り、その後大本堂にて御護摩修行に参加されました。精進料理の昼食後には、一号路の各お大師様を山麓まで巡拝し、無事に不動院に到着しました。

山内各所のお大師様に法楽を上げる

大師堂の前で先達の山伏と記念撮影

自然からのエネルギー

シャンソン歌手　友納あけみ

桜の花もあっという間に咲いて、散っていきました。一斉に咲き、美しいまま、惜しまれつつ散っていく…潔い桜の在り方だからこそ、こんなにも日本人の心を掴んで愛されるのかもしれません。うーん～なかなか人間、そうはいきませんね（笑）

風に散る桜吹雪の儚さ、それ故の美しさ…桜はいつも憧れを運んできます。美しい春が過ぎていきます。

気が付くと木々は一斉に新芽を芽吹かせ、鮮やかな若葉達が風に揺れています。新しい命のエネルギーが眩しいほど！一体、ついさっきまで丸坊主だった木立達の何処にあの花を咲かせ、若葉を繋ぎ合せるエネルギーが潜んでいたのでしょうか…本当に奇跡のよう！自然の力は計りしれません。

太陽に向かい大きく手を広げ、大きく息を思いっきり吸い込むと、自然からのエネルギーが身体中に降り注いで来てくれているような気がしてきます。

私もあの木々達にあやかって（笑）たくさんの自然からのエネルギーを吸い込んで六月のコンサートに向かってみます！